

【会議録（要旨）】

1. 開 会

○資料確認

○会議が成立していることの報告

2. 委嘱書交付

3. 会長あいさつ

4. 市長あいさつ

5. 議 事

【委員長】

それでは、ただいまから、令和5年度 第2回蓮田市障害者計画等策定委員会の議事に入ります。議事の（1）かがやきはすだプランの検討状況について事務局より説明願います。

（事務局より説明）

調査結果の概要につきましては、今回の計画策定の業務委託を行っている、高島テクノロジーセンターよりご説明を申し上げます。

（高島テクノロジーセンターより説明）

【委員長】

ありがとうございます。初めて委員になられた方もおられますので、アンケートのねらい等につきましてご説明をお願いします。

（事務局）

計画策定の背景、状況把握のためにアンケート調査を実施している。平成30年では、全体的な見直しがあり、その後、令和3年、今回の見直しとなっているが、令和3年の見直し時にはアンケート調査は行わなかった。令和3年の見直しの際にはヒアリング調査も行った方が良かったといったご意見もあり、今回団体ヒアリング調査も行っている。

アンケート調査結果を見ると、障がいに対する周知や合理的配慮など、今後さらに進め

ていかなければならないと改めて認識している。また、自由意見では厳しいご意見もいただいている。自由意見については、計画に載せるというよりは、改めて認識を持たせていただいたということで感謝している。こういったところを踏まえて、計画を策定させていただく。

【委員長】

このアンケート結果が今後どう活かされるかがこれから問われる話となる。アンケートの回収率を比べると、前回のアンケート調査の方が10%程度高い。障がい者の当事者では前回は67%、今回は58%、その他の市民では前回は53%、今回は44%。とは言え、市長もおっしゃっていたがこんなに回収率の高いアンケート調査はなく、また配布数を増やし大々的に行い、団体ヒアリングも行い、大きな前進である。質問やご意見につきましてよろしくお願ひします。

委員	年齢別でまとめたりはしてますでしょうか。
事務局	各設問についての年齢別の掲載はないが、お手元の「蓮田市障がい者福祉に関するアンケート調査結果報告書」の6ページに「障がい別の年齢」として、回答者の年齢構成を掲載している。 障がいの種別により、年齢構成が違っている。回答者の内訳では、身体障がい者の8割以上が60歳以上、知的障がい者では、6割が30歳以下、精神障がい者では30代、40代の回答者が多いという特性がありました。
委員長	年齢の違いによって特筆すべきところは、まとめるときに取り上げてほしい。
委員	今回のアンケートと前回のアンケートでは、内容的にはほぼ同じような内容でしょうか。
事務局	前回は平成28年に行っている。若干見直しも行っているが、前回調査との比較も見られるというところで、基本的には前回と同じ内容をベースとしている。
委員	前回と今回のアンケートを比べて、大きな違いや特筆すべき点があれば教えていただきたい。
事務局	今すぐにこういったところが特徴ということはお答えができないが、あまり大きく変わっていないという認識であり、「窓口を充実して欲しい」といった意見などは引き続きいただいていると感じている。
委員	団体ヒアリングも行っているということだが、こちらの分析をしっかりと行うべきと考えるが、お考えをお伺いしたい。
事務局	団体ヒアリングについては、平成28年度にも同じように実施している。

第2回蓮田市障害者計画等策定委員会

令和5年9月6日(水) 10時～11時50分 蓮田市役所 西棟第3・4会議室

	今回も実施しており、この後、結果の概要をご報告させていただければと考えている。
委員長	平成28年度にも団体ヒアリングは行ったが、今回は団体数を増やして行っている。
委員	身体障がい者の内容や、軽い方、重い方、いろいろいらっしゃると思う。なかなか公表されないで、前に出ないという方もいらっしゃったと思う。そのような内容はどうだったでしょうか。障がい者の方もすべてが自分を大っぴらに出した方じゃなくて、閉じこもっていた方もいらっしゃったのではないのでしょうか。
委員長	回収率が6割、4割は回答していない。この回答していない中にお尋ねの方が相当数いるのではないかと思う。 アンケートに答えられない人、答えたくない人、そういう方も当然いらっしゃる。そういう声をどうやって福祉施策に反映するかということも大きな問題となる。
委員	概要版の5ページ「医療費の負担が大きい」の精神障がい者の割合が多い理由の参考資料を提出したいがよろしいでしょうか。
委員長	時間が足りなくなるので、よろしくお願いします。
	(参考資料配布)
委員長	前回調査と今回調査の違い、また、高島テクノロジーセンターではほかの市町村でのアンケートもやられていると思うので、その違い、蓮田の特色もあると思うので、まとめる際には、ご留意いただければありがたい。
委員長	概要版の25ページに、一般市民のボランティアの参加についてのアンケートがある。「参加したことがない」が9割近い数字になっている。高島テクノロジーセンターの方ではどう思うか。
事務局	ボランティアへの「参加状況」に比べて、「参加意向」の方が少し多いので、そちらの方々に向けて施策の展開ができればと思う。
委員長	「参加状況」がこのような状況であるということは、参加できない、参加しにくい状況があるはず。そのようなことについて、これから取り入れていただけるようであれば入れていただきたいと思う。
	(参考資料配布終了)
委員長	それでは、どうぞ。
委員	この資料は、2021年に蓮田市長あての埼玉県精神障害者家族連合会と埼玉県精神障害者団体連合会による「重度心身障害者医療費助成制度」の対象拡大を求める要望書である。 資料2を見ていただくと、精神の2級は重度心身障害者医療費助成制度から外れている。重度心身障害者医療費助成制度対象者の手帳所持者

第2回蓮田市障害者計画等策定委員会

令和5年9月6日(水) 10時～11時50分 蓮田市役所 西棟第3・4会議室

	<p>に占める精神の割合は8.4%、手帳を取得している全障がい者数に対する重度心身障害者医療費助成制度対象者の手帳所持者の割合は1.7%と少なくなっている。なぜ5ページのアンケート結果につながるかというと、精神の医療費の負担が大きくなっている、ということ意見を言っておきたい。</p> <p>また、概要版の25ページのボランティアへの参加状況のアンケートについて、なぜ「参加したことがない人」が多いかということについて、上位計画で「互助」という概念がないため、ボランティアに参加する人が少ないと考える。</p> <p>上位計画では「自助」「共助」「公助」の3つを使っている。</p> <p>地域福祉計画で「互助」がないので、こういう結果になっているのではないかと思う。</p>
委員長	<p>その話は、委員会の中で具体的な施策を考えるときに出示していただければと思います。</p>

【委員長】

次のアンケートの説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

【委員長】

ありがとうございます。質問等ございますでしょうか。

委員	<p>蓮障連の11団体の方が回答ということで、例えば団体ヒアリングシートの10ページのところ、「どちらかといえば良くなってきた」が9.1%で1団体、「わからない」というのは、直接関わっていない団体もいっぱいある。「無回答」というのは、答えてはいけないのではないかと思う団体もあると思う。こういうところでパーセンテージを使わなくてもよいと思う。その下にある「あまり変わらない」という内容や「良くなったことではこういうことが改善されています」という内容があればよく、全てのことに対するパーセンテージを出す必要はないのではないかと感じました。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りと思います。表記の仕方については、こちらの方で考えさせていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>分母が少ない、文言で充分足りるアンケートである。ありがとうございます。</p>
委員	<p>大変恐縮な質問ですが、8月29日に配布された資料の中に、今説明のあった資料は入っておらず今回配られている。いきなりこれが入ってしまうと、考えられないこともいろいろとある。</p>

	<p>なぜ、このようになったのか。 私の資料は配布された資料に基づく説明資料として提出させていただいたもので、団体ヒアリングの資料は別資料である。 これについて検討する時間がないと発言できない。</p>
事務局	<p>こちらにつきましては、事前に送付できずに申し訳ありませんでした。本来であれば、事前にお配りをして、ご覧になっていただいたうえで意見を頂戴するというのが流れになるとは思いますが、事務的などころでお配りすることができずに申し訳ありませんでした。</p>

【委員長】

ほかになれば、もうひとつ説明があります。アンケートの結果説明がだいぶ時間を押しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

（事務局）

最後に、「国の基本指針の変更点等」についての説明でございます。こちらにつきましては、高島テクノロジーセンターよりご説明を申し上げます。

（高島テクノロジーセンター説明）

【委員長】

ありがとうございました。かなり難しい内容ですが、何かご意見ありますでしょうか。

（事務局）

補足させていただければと思ひます。

かがやき蓮田プランは3つの計画からなっております。「障害者基本計画」「障害福祉計画」「障害児福祉計画」。「障害者基本計画」が1番大きな、理念等を持っている計画となっております。「障害福祉計画」「障害児福祉計画」というのが先ほど説明をした活動指標、サービスの量ということについての内容となっております。こちらは3年ごとの見直しを行っており、「障害者基本計画」は9年間の大きな計画となっており、こちらも「障害福祉計画」「障害児福祉計画」の見直しにあわせて、国の考え方をに入れて、見直してくださいというものとなっております。

「障害福祉計画」「障害児福祉計画」については、県の方から指標を渡されて、それに対するトレンドも数字に反映しますので、大変恐縮ではございますが、こちらについては行政の方で任せていただいて、皆様にはご確認をお願ひできればと思ひます。

【委員長】

かがやきはすだプランに活動指標が入れてあり、実際どこまで実現しているかということについては行政の方でやっていただくということでご理解いただければと思ひます。

第2回蓮田市障害者計画等策定委員会

令和5年9月6日（水） 10時～11時50分 蓮田市役所 西棟第3・4会議室

基本理念や考え方について、ご質問等があればお願いします。

委員	基本指針における目標の変更点等の日中活動系サービスの利用者数及び量の見込で、「B型は継続入所者の数を除いて設定」や、生活介護の「継続入所者の数を除いて設定」というのは、該当する施設には厳しいのではないかと思いますがいかがでしょうか。
事務局	今現在の状況をまず分析し、そこからどれくらい伸びていくかという量を計算します。国からこういう数値を出すようにとされているので、何かしらの根拠を持って作っている。
委員	過去の数字を入れないと、新規の方だけの数値となると、すごく厳しくなりませんか。
事務局	生活介護については、通所系と入所系があり、過去の通所系の状況を加味して算出することになる。
委員	各事業所に、見込ませるのは難しくないですか。
事務局	それについては、各事業者にお願いするのではなく、行政の方で、入所系、通所系の生活介護の人数の把握をしており、そこからはじき出すことになると思います。

[委員長]

基本理念に関してはほかにありませんか。

委員長	私の方から1点。基本的な理念の（4）地域共生社会の実現に向けた取組とあるが、この委員会は、ご配慮いただき、当事者、当事者に近い団体がかなりメンバーに入っている委員会となっている。 地域福祉計画、総合振興計画は、別の委員がやっている。そちらには、障がい者の当事者や団体の方がほとんど入っていない。 地域共生社会と言っておきながら、ちぐはぐなところで計画をつくりがちなことがある。絵に描いた餅に近いものになってしまう。そのあたりを具体的に数値化して、かがやきはすだプランに入れないといけないので大変なところがあるということをご理解いただければと思います。
委員	かがやきはすだプランは、地域福祉計画からのトップダウンなのか、ボトムアップなのか。
事務局	市の一番の上位計画は総合振興計画、福祉にかかわる一番の上位計画は地域福祉計画になる。かがやきはすだプランをお持ちの方は7ページをご覧ください。 地域福祉計画は、福祉といった大きな分野を対象としており、そこまで細かな内容を記載できない。そういったところを補填する形で、障がい

第2回蓮田市障害者計画等策定委員会

令和5年9月6日(水) 10時～11時50分 蓮田市役所 西棟第3・4会議室

	者の計画であるかがやきはすだプランを作成する。
委員	要するに、上位とか下位ではなく、より細分化された計画だと思えばよいか。
事務局	上位か下位かと示すことになると、上位、下位ということになる。上位の総合振興計画に外れるものについて、下位の計画で計画することはできない。総合振興計画、地域福祉計画は網羅的に書かれているもので、個別具体的な施策、理念等は書かれていない。整合性を図るという表現になる。上位の計画に即してより具体化した計画を立てていくという風にお考えいただければと思う。
委員長	この件で、今回のアンケートの記述式回答において、一般市民からこういう意見があった。 「当事者の意見を聞いていると偏った意見になるのではないか。」 これは、それぞれの委員会の構成メンバーの問題である。アンバランスになると、このような市民の意見も出てくるので、ご配慮いただきたい。

【委員長】

最後にぜひ言っておきたいことなどありませんか。

委員	記述式回答の中の問題でいうと、深刻な内容、例えば障がい者の中で「死にたい」とおっしゃるような方もいる。そのような方を救える計画の内容となることが一番の願いだと思う。
委員	当事者の方が、未来が見えないということが、死にたいとか、そういった回答になってくると思う。アンケート結果を踏まえて、施策を考えていただければと思う。
委員長	記述式に回答してくれた方が350人くらいいる。深刻な問題をそれぞれ提起している。この方に対するアフターフォローをお考えかどうかお尋ねしたい。
事務局	一番情けないと思っていることは、返信用封筒が小さすぎるということ。皆様から頂いたご意見については、支援施策や事業において改善すべき内容もかなり多いかと考えている。 「福祉タクシー券を西口で取れないか」といった意見など、身近な話もいっぱいある。できることから、事業ということで対応していきたい。具体的な支援についてもきめ細かいところをやって、意向をなるべく反映していきたいと思う。
委員長	この350人くらいの全員の方とは限らないが、福祉課の方で声をかけても良いようなケースも見られる。フォローアップの意味で、電話、手紙など何かできればよいと思うがいかがでしょうか。

第2回蓮田市障害者計画等策定委員会

令和5年9月6日(水) 10時～11時50分 蓮田市役所 西棟第3・4会議室

事務局	今回のアンケートは、記名式ではないので、どなたが回答しているのかが分からない。総じてみると、情報発信が足りていないというご意見があったので、ホームページの作り方も検討していかなければならないと改めて思いました。
委員	記述式の回答集の中に、スマートフォンもパソコンも持っていない、わからない、どこで調べてよいかもわからないという方もいる。市で配られている広報とかでしか情報を得ることができない方もいらっしゃる。質問したことが広報紙で回答があれば安心していただけるのではないかと思います。
事務局	広報紙に、障がい者マークの案内や聴覚障がいの方の記事、福祉タクシー券の配布が始まること、障害者手当のことなどを載せてはいる。障がい者制度のことについてもどういふことを載せていけばよいかということも検討していきたい。
委員長	個別に対応することが難しいということはおわかりますが、福祉課の職員の皆さんには、記述式の内容をみんなで読んでいただいて、きめ細やかな対応をお願いしたい。

[委員長]

今日は長い間ありがとうございました。事務局に司会をお渡しします。

6. 閉会